

## PCP の飛躍的發展のため、ご協力をお願いします。

会長 柴岡弘郎

挨拶というものが兎に角苦手で、出来ることならば挨拶抜きでひっそりと就任し、そのまま何事もなかったように任期を終えようと思っていたのですが、就任して間もなく、何事もなかったように任期を終えるのはとても無理であることに気づきました。学会の財政難です。そこで、会員の皆さんには誠に申し訳ないのですが、会費値上げを鹿児島県の年会の折りの評議員会にお諮りしました。幸い評議員の先生方の暖かいご理解により値上げ案はお認め頂いたのですが、会費の値上げをしておきながら一言もないという訳には、いかに挨拶が苦手な私でもお許し頂けないだろうと諦め、一言ご挨拶申し上げることに致しました。

一昨年まで、Plant and Cell Physiology (PCP) の編集に携わっておりました。ご存じと思いますが、PCP の刊行には文部省からの多大な援助があります。この援助の大きさは、学会側から提出した、「これだけのページ数」のものを刊行しますのでこれだけの援助を下さいと言う申請書に基づいて決められています。従って、申請書に書いた「これだけのページ数」はどうしても刊行する必要があり、私の担当していた時期には、「これだけのページ数」を刊行することに可成りの困難を感じていました。その当時の私の願いは年間投稿数が300を越えて呉れることでした。投稿数が増えれば質の高い論文だけで「これだけのページ数」を確保出来るからです。さて、浅田浩二編集長に代わった昨年度はこの夢のまた夢とも言うべき、300編以上の論文が投稿され、それを反映して「これだけのページ数」を遙かに上回るページ数の PCP を刊行することが出来ました。これは一重に浅田編集長を初めとする編集実行委員の先生方の並々ならぬご努力の賜物で、誠に喜ばしいことですが、この予定以上のページ数の刊行は、学会の財政を大きく圧迫することになりました。このまま放置しておけば、今年度はぎりぎりを持ちこたえられても、来年度の赤字は必須と言うことで、執行部としては何らかの手をうたねばならぬと考えました。手の打ち方として大きく二つのことが考えられました。一つは、「あくまでも予算の範囲内で刊行すべきである。即ち、投稿数が増えても予定ページ数を越えて刊行すべきではない。」と言う考えで、もう一つは、「投稿数の増加を PCP の一層の飛躍のための追い風と受け止め、これを機会に念願の月刊化を図る。」と言う考えです。前者の考えは、今まで通りの予算規模で予算案を作り、これをしっかり遵守せよ、と言うものですから、大きな変化

はなく無難なところに落ち着くように思います。後者の考えによる月刊化は、このままの予算規模では行えませんので収入を増やさなければならず容易ではありませんが、月刊化による投稿から掲載までの日数の減少がもたらす投稿意欲の増進と、投稿数増加による PCP の質的向上への期待の大きさから、執行部は月刊化の可能性について検討することに致しました。収入の増加の方策として、まず handling charge を徴収するなど、いわゆる受益者負担による収入増を検討しましたが、折角上向いて来た投稿意欲に水を差したくないことなどの理由により、誠に心苦しいのですが会費値上げと言う形で会員全員にご協力をお願いしようと言うことになりました。久しぶりの値上げとは言え、会員各位の負担増となることには違はなく、本当に申し訳無いのですが、PCP の格段の飛躍のためご理解頂きますようお願い致します。また、月刊化により魅力を増した PCP をさらに魅力的にするため、是非ともご投稿をお願いします。

鹿児島県の評議員会では、学会始まって以来初めて、アメリカ植物生理学会 (ASPP)、カナダ植物生理学会 (CSPP)、オーストラリア植物生理学会 (AuSPP) と共催で年会を開く事をお認め頂きました。ASPP と共催で年会を開くと言う話は、かなり以前からありました。記録によりますと、1987年、当時の ASPP 会長 L.E. Schrader より JSPP 滝本敦会長宛に年会共催の可能性についての問い合わせがあったようですが、国際植物学会議の日本での開催を1993年にひかえており、日本植物生理学会 (JSPP) もこの開催には大きくかかわっていたことから、JSPP 側は、JSPP-ASPP 共催の年会 (Joint meeting) は国際植物学会議が終わった後にしようとして提案し、共催を先延ばしにして来ました。ところが国際植物学会議も無事終了した後の1994年、再び ASPP 会長の Russel Jones から1997年に Joint meeting を持とうとの打診があり、さらに1995年には ASPP の新会長の Bob B. Buchanan と CSPP 会長の Ronald J. Poole との連名で正式な招待状が今関英雅前会長宛てに送られて来ました。Joint meeting には参加費の160ドルを参加者各自が支払うだけで、学会からの特別な出費は不要であること、今関前会長が評議員に対して行ったアンケートの結果、前向きに対処すべきという意見が多かったことなどから、今回、正式に評議員会にお諮りし、正式に招待を受け入れ年会を共催で開催することを決定致しました。場所はカナダのバンクーバー、1997年の8月2日から6日に

開催されます。ご存じのとおり、今年から科研費に外国旅行のための旅費が計上できるようになりました。Joint meeting を盛り上げることに大いに役立つものと喜んでます。奮ってご参加下さいますようお願い致します。なお、国内での年会は3月末に京都で開催致します。京都での発表とバン

クーバーでの発表が同じものになることは一向にかまいませんので、京都の年会にも奮ってご参加下さい。

会費値上げに対する会員各位のご理解を重ねてお願いし、PCP の飛躍的な発展と、JSPP 初めての試みである Joint meeting の成功を祈りご挨拶と致します。

## 学会記事

### 1. 会費の値上げ

通常会員、団体会員および賛助会員の年会費の値上げが、1996年度評議員会において決定され、1997年度から(外国通常会員会費は1998年度から)執行されることになりました。評議員会議事録と会長挨拶を参照してください。過去10年間の年会費値上げ状況と来年度からの新会費は下表の通りです。

	1987	1990	1993	1994	1996	1997	1998
通常会員							
国内	8,000	10,000				12,000	
学生	4,000	5,000				6,000	
外国	\$ 40	\$ 50			\$ 60		\$ 70
外国学生	\$ 40	\$ 50	\$ 25		\$ 30		\$ 35
団体会員							
国内	25,000	32,000				40,000	
外国	\$ 140	\$ 180		\$ 250		\$ 350	
賛助会員	50,000					60,000	

### 2. アメリカ・カナダ・オーストラリア植物生理学会との1997年バンクーバー合同大会

1987年より懸案となっていました合同大会に、1997年度の学会事業として共催参加することが評議員会で決定されました(会長挨拶を参照)。会期は1997年8月2-6日、開催地はカナダのバンクーバーです。全会員に向けて、詳しい案内を9月頃に、参加・発表申し込み用紙を12月頃に配布する予定です。要旨の締切は1997年2月28日の予定です。

質問等がありましたら、飯野盛利幹事長にお尋ね下さい。

Tel 0720-91-2681, Fax 0720-91-7199,

E-mail: iino@osk.threewebnet.or.jp

### Plant Biology '97 - A View From the Pacific Rim

American Society of Plant Physiologists,  
Canadian Society of Plant Physiologists,  
Australian Society of Plant Physiologists and  
Japanese Society of Plant Physiologists

Saturday, August 2 - Wednesday, August 6  
Vancouver, Canada

\*\*\*\*\*

Five major symposia have been planned:

President's Symposium - Plant ATPases  
Regulation of Root Development  
Metabolic Engineering  
Early Events in Signal Transduction  
Photoinhibition

Eight minisymposia will be organized.

### 3. 第4回日本植物生理学会奨励賞の候補者募集

奨励賞は、自薦あるいは他薦による候補者の中から、学会賞選考委員会により2名以内が選考されます。外国人会員にはJSPP Newsletterで候補者募集をします。奨励賞の授賞資格を満たす国内外の会員については、下記の募集要領に従ってご応募下さい。

なお、論文賞についてはPCP誌に1994-1995年に掲載された論文の中から、1件以内が同選考委員会により選考されます。

学会賞授賞規定(次ページに掲載)も参考にして下さい。

#### 募集要領

#### 1. 候補者の資格

- (1) 植物科学の進歩に寄与する優れた研究を行い、将来の発展が期待される者
- (2) 1997年4月1日において満40歳未満の本学会員
- (3) 授賞対象の研究の主要部分を、国内で実施、あるいは本学会年会・シンポジウムまたはPCP誌に発表している者

2. 応募方法: 下記の書類6部を10月19日までに届くよ